

2024. 10. 10

(2024.9.9) 銀河の秘(姫)神“菊理姫”からの宿題？

真の“科学”=“スピリチュアル”(内なる宇宙)？！



2024年9月9日、なんとなく、“菊理姫”から呼ばれている？気がして

白山さん(白山比咩神社)へと出かけました(^^) /

まだ早朝だったので、本殿前は人影がまばら、シャッターチャンス！！と思い、

機種変更したばかりの、新しい携帯カメラを構えました。^^

あっ？！葉っぱが落ちて来た——

「もう、秋なんだ~」と、足元の枯れ葉に、季節の移ろいを感じながら表参道を登ってきたので、

“葉っぱ”がイメージされたのだと思うのですが、アレっ、葉っぱが上に上がっていく…？ってどういう事？

もしかして、虫？蝶？と思い直し、辺りを見回してみても、何もいません？

。。。

不思議に思いながらも、いつものように感謝と決意の祈りを捧げ、自宅へと帰りました。

アルバムを開くと、動画を撮った覚えがないのに、動いています？

調べてみると、新しい機種には、トップショット機能と言われるものがあり、設定しておく、

シャッターを押す前後の瞬間を、カメラが自動で撮影してくれるので、後で、

その中から自身のお気に入りを選び直す事が出来る、というものです。(オートに設定されていました。)

メカ音痴なので、そのような機能があることに全く気付いておらず、

画像が動いてビックリ？！それが、あの本殿前を見た、不思議な光景でした。^^

もしかしたら、菊理姫からのメッセージであり、中今の宿題？！

不思議は不思議じゃないのかも？裏側には宇宙の法則(真理)がある?! そんな風に思えてきて、
物理学の世界を覗いてみることにしました！^^

現代物理学には、“量子論”と“相対性理論”と呼ばれる、二つの柱があることがわかりました。

相対性理論は、重力や時間・空間等、比較的規模の大きなものを対象としたもので、
量子論は、物質を構成する原子の中の電子等、目に見えない小さな世界を扱う理論との事です。

自身は、理系に苦手意識があったので、今まで避けてきた分野(笑)ですが、
触れてみて、考え方が変わりました。

夢・創造・ワクワクがいっぱい詰まった、魅力溢れる世界であり、
それらを法則化し、現実化しようとする強靱な意志力によって、日々進化し続ける、
愛と光の“近未来地球”、そのままでした。^^

20世紀最大の物理学者とされる“アインシュタイン”の有名な方程式に

$$E=mc^2 \text{ があります。}$$

自分にはあんまり関係ないけど、気になるのは何故？で、意味を調べようとするのですが、
こんなにもシンプルなのに、そこに至るまでの難解さ?! たるや…目がくらみ(笑)、退散~という感でした。

直訳すると、「エネルギー(E)は、質量(m)に、光速の二乗(c^2)を、掛け合わせたもの」
となり、“質量とエネルギーの等価性をあらわすもの”との事です？

運動エネルギーは、質量と速さの二乗に比例する？と習った記憶があり、
それに似ている気がします(アハウト^^)、何故、光の速さの二乗(c^2)なのでしょうか——？

この世界には、光より速いものはないとされるのだから、その二乗という事は。。。

目の前に、莫大な光のシナジーが広がっていきます。

目に見える物質(質量)も、目に見えないエネルギーも、本質的には同じものであり、
それは、光の速さで、 ∞ に広がり続けている?!

それ、とは。。。?

そんな事を考えていると、とても心に響く、“アインシュタインのメッセージ”に目が止まりました。^^

『アインシュタイン 愛の手紙』という書籍の中に出てくるとされる、
アインシュタインが娘のリーゼルの「今はまだ公開しないように…。時期がくるまで、守ってほしい。」
と添えて、贈ったとされる手紙、その一部分を抜粋させていただきます。

○現段階では、科学がその正式な説明を発見していない、ある極めて強力な力がある。

それは他のすべてを含み、かつ支配する力であり、宇宙で作用しているどんな現象の背後にも存在し、しかも私たちによってまだ特定されていない。

この宇宙的な力は「愛」だ。

科学者が宇宙の統一理論を予期したとき、彼らは、この最も強力な見知らぬ力を忘れた。

愛は光だ。

○この力は、あらゆるものを説明し、生命に意味を与える。これこそが、私たちがあまりにも長く無視してきた変数だ。

それは恐らく、愛こそが、人間が意志で駆動することを学んでいない、

宇宙のなかの唯一のエネルギーであるため、私たちが愛を恐れているからだろう。

○もし、私たちが自分たちの種の存続を望むなら、もし私たちが生命の意味を発見するつもりなら、

もし、私たちがこの世界と、そこに居住するすべての知覚存在を救いたいのなら、

愛こそが、唯一のその答えだ。

○それぞれの個人は自分のなかに、小さな、しかし強力な愛の発電機を持っており、

そのエネルギーは解放されるのを待っている。

まさに、私の疑問の答え？ではないでしょうか。^^

アインシュタインが愛しい娘に宛てた手紙、それは今この時、人類すべてに宛てられた手紙——。

物理学の、最初の一步を踏み出せた気がして、幸せな気持ちになりました。^^

【物質の最小単位、素粒子】

“量子学”は、原子や分子等、ナノサイズ(1メートルの10億分の1)以下の極微の世界を対象とし、

電子のように、これ以上は分解出来ないと言われるものを“素粒子”と呼んでいます。

現在のところ、17種類が発見されているとの事。(左下図:ウィキペディアより)



素粒子は大別すると、物質をつくる素粒子である“フェルミ粒子”と、

相互作用/力の伝播に関わる“ボース粒子”の2種類があり、原子核の中の陽子と中性子は、

“アップ・ダウン”という名前のクオーク(強いカの影響を受けるフェルミ粒子)がくっついた状態のものであり、電子はマイナス(-)の電荷を持つ、レプトン(強いカ的作用を受けず、単独で存在できる)の一つです。

目に見えない世界の事なので、ピンときませんが、私達の肉体も、他の全ての物質も、原子が集まって出来たものとされ、素粒子の集合体という事になります。

原子核の周りの電子は、人と物の境を越えて、自由に動き回っています。^(例として静電気があります。)

電子や陽子は、物質の形態をとるフェルミ粒子ですが、

物質という形をとらない、カの伝播に関わるとされるボース粒子の中に“光子”が挙げられています。

光子(フォトン)は、“創造の源”、“一なる根源の光”であり、私達の“魂”も、その光で出来ている——

自身にとって“光”は“万物の源”であり、論理を超えて、ただ在るものだったので、

こんなところに並んでいたのか？という感じでもあります。(笑) (“光”の持つ∞の可能性の中の3次元モデル?)

「光は、“波”であり“粒”でもある」という、

波動と粒子の、“光の二重性”を唱えたのはアインシュタインとされます。

光と言えば、太陽から分かれ出る虹色の光が浮かびますが、これは光を“波”としてみたもので、

“電磁波”と呼ばれている光の波の中の、可視光線とされる部分です。

可視光線より波長が短いとされる紫外線や X 線、波長が長くとされる赤外線やマイクロ波等、

波長の違い=働きの違いによって、私達の生活の場で様々に活用されています。

素粒子の標準模型の中の“光子”は、カの伝播に関わるとされるボース粒子の一つなので、

“波”であるというのはわかる気がしますが、“粒”でもある、とはどういう事なのか？イメージし辛いです(^;)

この“波と粒の二重性”は光子だけでなく、全ての素粒子が持つ不可解な性質の一つとして、

実験(二重スリット実験)により立証されている、確かな論理との事です。

量子力学と、それ以前の力学(古典力学)との大きな違いは、結果の曖昧性にあると言われます。

量子力学は、観測される現象が、偶然や確率に支配される事もあるとされ、

何度やっても結果は同じになる、というこれまでの科学の定義とは違っているのだそうです。

様々に語られている“二重スリット実験”を参考にさせていただいて、自分なりの考えをまとめてみると、

素粒子とは、可能性の幅(確率) = “波”(エネルギーと言い換える事もできるのでは?)であり、

観測すると(観測してはじめて)、その可能性の中の、一つの値に確定される?!

その確定された値を、私達は“粒”と呼び、確かなもの(物質や現象)として認識する…

ということで、エネルギーと物質、目に見えないものと見えるものを融合させる論理であり、

そこになくなくてはならないものが“観測”、イコール、私達の“意識”の働き、ではないでしょうか?^^

理解できる?! できない? に関係なく(笑)、私達の身の回りには、

パソコンやデジカメ、スマホ等、量子学から生まれた便利な機器がいっぱいなのです。感謝!^^

フォトン(光子)について、興味深い情報がありました！！

「現在バイオフィトンと呼ばれている発光が確認されたのは、1960年代の光電子増倍管の発明以降である。光電子増倍管によって、あらゆる生物のあらゆる器官から、フォトンとして観測されるほど弱い光が恒常的に観測されることが知られるようになった。

その後1970年代半ばに、フィリップ大学マールブルクのフリッツ・アルバート・ポップによって、初めて大規模な物理分析が行われ、ヨーロッパや日本の研究グループが多くの研究を行っている。」

(ウィキペディアより)

バイオフィトンとは、あらゆる生命体が発している光で、人間のDNAからも観測されていて、私達の全細胞(全身)から、光が出ているのだそうです。(微量なので見辛いとありますが)

最も興味深いのは、ドイツの理論生物物理学者である、フリッツ・アルバート・ポップ博士の言葉

「意識とは、共時性をもつフォトン(光子)であり、脳内だけで起こるのではなく、身体のある部分で生じる、全体現象である」です。

自身のなかでも、“意識”と“光”は同じもの、との感覚があり、また

「意識は脳作用」とされ、脳に限定される事に違和感を覚えていたので、すごく納得でした。

人は、粒としてみると、“身体”であり、波としてみると、∞の可能性を持つ“光”であり“意識”である?!

只今、二重スリット実験中?!?^^?

標準模型の中の“ボース粒子”は、

自然界にある4つの力(電磁気力、強い力、弱い力、重力)の媒介となる素粒子であり、粒子をキャッチボールのように交換しあうことで、力が作用すると言われます。

自然界に働く力が、たった“4つ”に分類されるとは、知りませんでした…(+o+)

“電磁気力”とは、電気や磁石をイメージするとわかりやすく、私達の日常生活に欠かせない力です。

ミクロの目でみると、電磁気力とは、+と-の電荷(電気)をもつ粒子の間に働く力の事であり、面白い例として、「手に物を持つ」という行為が説明されていました。

手と物を構成しているそれぞれの原子の中の電子は、マイナスの電荷を帯びているので、双方の電子が反発し合い、実際には、手と物との間に、わずかな距離が出来ている?との事です。

本来、手も物質も、99%が空間(エネルギー)で出来ているとされる原子の集合体なので、

お互いの電子が反発し合わなければ、手と物は混ざりあってしまう?可能性もあり、物に触れたり、動かしたりしている私達は、素粒子マジシャン?!(笑)と言えるのかもしれません。^^

私達が日常生活の中で感じる力とは、重力以外、ほぼ電磁気力の事であり、強い力と弱い力は素粒子というミクロの世界で働く力なので、実感することはないと言われます。

“強い力”というのは、電磁気力の百倍程もある強い力なので、そう呼ばれていて、

クォークを結びつけ、陽子や中性子を作ったり、陽子(+)同士の間に関く電氣的な力に打ち勝ち、中性子とともに原子核を作る等の力であるとの事です。

“弱い力”とは、原子核の崩壊など、ある粒子を別の粒子に変える力であり、電磁氣力に比べると遥かに弱い(影響を及ぼす距離が非常に短い)為、弱い力と呼ばれていて、私達には実感がありませんが、量子の世界では重要な役割を果たしているとされます。

“重力”については、ニュートンの“万有引力の法則”が浮かびます。

人が回轉(自轉)する地球上に立ってられるのは、重力が働いている為との認識はありましたが、それ以上の事は今まで考えてみたこともなく…、今一度フォーカスしてみると、

“万有引力”とは、質量を持つすべての物体の間に働く引力(正確には時空の歪み?)なので、宇宙の誕生から現在に至るまで、あらゆる天体と、それらを形づくる一つ一つの粒子の間で働き、私達の銀河系、太陽系、地球をつなぎとめ、壮大な宇宙構造を維持、運営してきた膨大な力!?

と言えるのではないのでしょうか。^^

けれど、基本的な4つの力の中の一つとしてみた場合、“弱い力”と比べものにならないほど弱く、ミクロの世界では無視する事が出来る=誤差として処理できる範囲との事?

なんかしっくりこない…でしたが、調べてみると、感覚だけでものを言っている自身とは違い、キチンと理論立て、実証を積み重ねていく物理学においても、大きな謎であった事がわかりました!(後述)

電磁氣力は“光子”、強い力は“グルーオン”、弱い力は、“W ボソンとZ ボソン”が媒介していて、重力に関しては、まだ未発見とされる、“重力子”が媒介しているとの事です。

17種の標準模型の右上に、ボソンとある“ヒッグス粒子”は、

2012年になって、ようやく発見されたばかりの(まだボヤっとした感じ?との事)、

大きな質量を持つスカラー粒子で、「粒子に質量を与える素粒子」との事です。

他の16種の素粒子とは、ちょっと異質であり、宇宙の謎の鍵を握るのでは?とされる粒子で、ダークマターや反物質とのつながり等、様々な可能性が研究されているとの事。

“ヒッグス粒子”は私達のまわりの空間に蔓延していて、もし、ヒッグス粒子がなかったとしたら、原子の中の電子が、突然光の速さで外へと飛び出していってしまい?

私達の肉体は、瞬時に消滅してしまう?!とされ、そんなにも重要な粒子が、

最近まで発見されていなかったのか?と思うと、不思議コワイ(笑) 気もしますが、それ以上に、未来の、未知の、大きな可能性を感じ、ワクワクします! ^^ (いつ何が起こるかわからない?! 未来は未知数です!)

宇宙の創世記、ビッグバンによって生まれたばかりの素粒子達は、質量を持たず、

宇宙空間を光速で、自由に動き回っていましたが、やがて宇宙が低温状態となるにつれて、

ヒッグス場(ヒッグス粒子で出来たプールのような空間?)が生まれ、

その中で動き回る、ほとんどの素粒子が、ヒッグス粒子の抵抗を受けることとなり、

その“動きにくさ”の事を、私達が“質量”と呼んでいるとの事です。

あつ、今、「宇宙では、全てが密接に関わりあっている。」と言われる意味がわかった気がします?!

宇宙空間には単独で存在するものなど一つもなく、あらゆることが個と全体の関わりにおいて意味をもつ—、

“個は全体によって生かされ、全体は個によって生かされている”=“ワンネス”ではないでしょうか? ^^

ヒッグス場の中でも、何故か“光子”は、その抵抗を受けることがなく=質量を持つことなく、

宇宙のはじまりから現在まで、自由に動き回っているのだそうです? ^^

素粒子には、先に述べた“波と粒の二重性”以外にも、不思議な働きがあるとされ、

“量子の重ね合わせ”、“量子もつれ”と呼ばれています。(自身がよくわかっていないので、説明もそれなりです、笑)

複数の状態が同時に存在することを、量子学では、重ね合わせ状態といい、

その例としてあげられていたのは、量子コンピューターです。

コンピューターは、数値の“0”と“1”、この二つの数値(二進数)だけで、

全ての情報(データと命令)を処理しているとされ、一度に扱える情報の最小単位がビットです。

これまでのコンピューターのビットは、0または1の、どれか一つの状態しかとる事が出来ませんでした、

量子コンピューターで用いられる“量子ビット”は、0と1の両方の値を、同時にとる事が出来る?

= “量子の重ね合わせ”状態を利用することで、複数の情報を並列化して処理する事が可能となり、

処理速度が劇的に進化したといわれます。

また、“量子もつれ”とは、(簡単に言うと)粒子間に起こる強い結びつきの事で、

二つの粒子の間に一旦、量子もつれの関係が起きると、どれだけ距離が離れていても、

一方の状態が変化した途端、(光速を超えて?)他方も瞬時に変化する?という現象の事とされます。

(※“もつれ”とは、一方が右回りで、一方が左回り、といったもつれた関係の事)

量子コンピューターにおいても、複数の量子ビット間に、“量子もつれ”を応用する事で、

高速処理を実現しているとの事です。(仕組みは理解できませんが、なんだか凄い! ^^)

計算や情報処理能力では、到底量子コンピューターに適いませんが、人の脳が持つ独創性

=直感力(閃き)や想像力(→創造力)などは、3次元と異次元の間で起こる、まさに、量子の重ね合わせ、

量子もつれ状態をみるようであり、本来の人の脳は、量子コンピューターよりも凄い!!かも?! ^^

“0か1か”、ではなく、“0も1も”!!とする量子学の世界に、

“二極化の時代”から“統合の時代”へと向かっている、新しい地球が重なって感じられます。^^

【超大統一理論 (万物の理論、神の方程式?!)】

万物の理論とは、自然界に存在する4つの力、すなわち電磁相互作用・弱い相互作用・強い相互作用・重力を

統一的に記述する理論(統一場理論)の試みである。

このうち、電磁気力と弱い力はワインバーグ・サラム理論(電弱理論)によって電弱力という形に統一されている。

電弱相互作用と強い力を統一的に記述する理論は大統一理論と呼ばれ、現在も研究が進められている。

最終的には、重力も含めた全ての力を、統一的に記述する理論が考えられ、

これを**万物の理論**または**超大統一理論**という。

ミチオ・カク氏は、万物の理論に含まれている四つの力を全て求められる方程式を、「**神の方程式**」と呼んでいる。

素粒子の標準模型の中にある“ボース粒子”は、

上記に述べられている、自然界の4つの基本的な力を媒介しています。

この4つの力は、宇宙のはじまりには、たった一つであったとされ、

そこへの帰結が、量子学の究極の目的であり、人類にとっての壮大なテーマと言われます。

万物の理論の候補(超弦理論、M理論)

現在、全ての力を統一した理論、すなわち「万物の理論」となりうる可能性を秘めている理論として超弦理論がある。具体的な超弦理論として、5種類のモデルが数学的に可能であることが知られている。

そして5つのモデルを、11次元時空の理論である「M理論」なるもので統一しようという試みが、プリンストン高等研究所で研究中のエドワード・ウィッテンを初めとする、世界中の理論物理学者たちでなされている。

M理論の場合、素粒子はひもではなく二次元の膜として扱われる。

この理論が完成すれば、素粒子のあらゆる性質が説明できるばかりか、宇宙(=時間と空間)が誕生し、消滅する様子さえも理解できる、究極の物理理論になると期待されている。

万物の理論となりうる可能性を秘めた理論として、超弦理論(ひも理論)があるとされ、

超弦理論では、素粒子を“点”とするのではなく、1次元の“ひも(弦)”とし、

ひもの振動の違いによって、様々な性質を持つ素粒子を表す事が出来ると言われます。

一つのひもで17種の振動の違いを表現する為には、3次元以上の、新たな次元が必要であると、

超弦理論では、9次元(+時間で10次元)が想定されています。

(数式、方程式等が理解できると、何故9次元なのか?も、ちゃんと理解できみたいですね^^。)

更に、超弦理論から導き出された5つのモデルを統合するとされる、M理論が誕生しています。

M理論では、素粒子を“ひも”ではなく、“膜”(ブレーン)とし、

次元は、更に一つ増えて、11次元(10次元+時間)とされます。(次元とは、現代科学の進化度を表している?)

縦・横・高さで3次元(+時間を加えた4次元)までは、人が感知する事が出来る世界ですが、

5次元以上(余剰次元)は、理解できない世界であり、あるとしたら、どこにあるの…?

それは、空間の至るところ?に、コンパクトに畳み込まれていて?私達には感知不能との事です^^

宇宙はたった一つ(ユニバース)ではなく、私達には観測する事が出来ない、複数の宇宙がするという、

“マルチバース(多元宇宙。マルチ[複数]+ユニバース)論”があるとされますが、他に

“パラレルワールド(平行世界)”とよばれるものがあり、自身には謎?両者は同じもの?!という感覚でした。

けれど、パラレルワールドがものすごく身近に感じられるようになってきている…？気がして、その理由を考えてみると、パラレルワールドとは、私達が存在している3次元(4次元)に最も近い、5次元界の様相を示すものだからなのかもしれない——、と思えてきました。

超弦理論(M理論)では、私達の宇宙は、11次元で構成されるとし、5次元の中に、平行して並んでいる無数の膜(ブレン)のような世界の一つが、この3次元(4次元)空間であり、私達はその膜に張り付いていて、外に出る事が出来ないとされます。無数の膜は、現在の私達には認識する事ができない、別の3次元世界とされますが、もしかしたら、私達の膜のすぐ隣にある膜は、私達が認識している時間や空間、起きている現象等が、微妙に異なる世界であり、それは私達がその時何を選択したか？の違いによって分岐した世界線＝“パラレルワールド”なのかもしれません。^^

量子力学においても、選択しなかった可能性の世界は無くなってしまわずに、並行して存在し続けるという“多世界解釈”があるとされますが、この場合の“多世界”は、平行線のままで接触する事はないとされ、自身の感じているパラレルワールドと少し違っている気がします。2010年頃から多く語られるようになったとされる現象に、マンデラ効果と言われるものがあります。

「真実ではない事柄や出来事を、大規模に集団で信じ込んで記憶してしまう事」とあり、原因としては、思い込み、錯覚、意図的な情報操作によるもの等様々あると思われそうですが、もし、それが真実である別世界(パラレルワールド)が存在していて、その世界を感じ取っているのだとしたら…？そして、それらのパラレルワールドを、自由に行き来できるとしたら…？

私達の肉体は3次元物質なので、膜の外へと出る事が出来ませんが、“意識”には制限がありません。5次元の世界が見えてきた？！であり、人類の意識の進化・上昇＝“アセンション”を感じます。“想像”とは、すでにあるパラレルを垣間見ている状態?!であり、決して手の届かない世界じゃない!!と。^^5次元とは、真の自己＝“魂”＝ハイアーセルフが存在する次元で、過去・現在・未来が同時にそこにある、“自己の現実(3D世界)創造の場”と言われます。(∞のパラレルワールドを見渡し、選択する?)

100%ポジティブ、愛と光、調和と喜びに溢れた世界であり、私達が目指す、12次元以上の新しい宇宙(NMC)への、スタートラインでもあります。^^そこへと向かって誰もが、次元の階段を一步一步上って行かなければならず(＝意識の進化、アセンション)、“異次元”や“パラレルワールド”等のキーワードの表面化は、それが真に始まっている！という証ではないでしょうか？^^

自身はこれまで、宇宙とは壮大な空間で、その中の小さな“地球”という惑星に住んでいるのが、小さな、小さな私達であり、地球の周りには、何重にも重なるようにして、目に見えない異次元空間が取り巻いている…、そのようなイメージを持っていたのですが、

もしかしたら？ 宇宙は小さい？！ というか、私達の内にあるのでは——？

“意識”がその扉であり、扉の向こう側にのみ、宇宙は広がっていて、その大きさは、
自己の意識の大きさそのまま？！ = “∞” なのでは？と。^^

ちょっと意識が爆走しました(笑)、超弦理論に戻ります。^^

(先にも触れましたが) 超弦理論が、超大統一理論への可能性を持つとされるのは、
4つの力の内の“重力”が、他の3つの力に比べ、あまりにも小さすぎるのでは？という
“階層性問題”の解決につながる理論である為と言われます。

超弦理論における物質の最小単位は、“閉じたひも”(輪ゴムのような感じ)と、“開いたひも”であり、
開いたひもは、D プレーンと呼ばれる膜のようなもの(私達の住む3次元空間)に、

その端がくっついていて、膜の外側に出る事が出来ませんが、

唯一、閉じたひもとされる重力子は、外側へと自由に行き来できるとされます。(重力の他次元への拡散)

これが、私達の世界で“重力”が、他の三つの力に比べて圧倒的に弱い理由との事です。

私達の現実を肯定することは、これまで妄想？とされてきた“多次元世界”を認めることでもあった？！

- ・素粒子の全ての性質を持つ“弦(ひも)”が存在するためには、11(10)次元が必要である事。
- ・私達の住む世界は3次元の膜のようなものであり、他の次元はその中にコンパクトに畳まれている事。
- ・閉じたひもと開いたひもがあり、閉じたひもである重力子のみ？ 異次元へと出入りできる事…等

まるで、SFの世界を見ているみたいですが、“超弦理論”や“M理論”は、

現代の物理学者が真摯に取り組んでいる課題であり、実社会で展開されている事柄です。

超大統一理論は未完成で、まだ実証されていないと言われますが、すでに道は開かれている！では？^^

異次元の存在が明らかになる、という事は、

“科学の進化”と“人の進化(霊・魂・体の三位一体)”の足並みが揃い、

3次元“地球人”から、高次元“銀河宇宙人”へと、進化していく！という事なのだと思います。^^

私達は何度も転生を重ね、その準備をしてきた！

今最も大切なのは、自己 = 他者を信じる勇気と行動力！ではないでしょうか！^^

°.°...°.°☆。°.°° エイエイオー——！！！！°.°...°.°☆。°.°°

自身には超弦理論について、一つの素朴な疑問がありました。

それは、“光子”が“開いたひも”とされている点です。(光子は3次元の膜に縛り付けられている？)

光(子)は宇宙のはじまりから、完結したエネルギー = 美しい球体(私達の“魂”の姿でもある)のイメージであり、

“閉じたひも”の方ではないでしょうか？ 誰かが、ひもを切った？

光は意識でもあり、光も意識も、∞の時空(高次元界)を行き来できるはず!! そう思えてなりません。^^

(以下は文系人間の妄想？です^^)

重力(子)とは、重い(思いの)力であり、“愛のエネルギー”の現れの一つで、“光(子)”とは双子?!

重力(子)がまだみつからないのは、“真の光子”がみつからないからなのでは? ^^

“ヒッグス粒子”と“重力子”も似ている…気がしたのですが、

光子と重力子が双子であれば、光子がヒッグス場の影響を受けない、とされるのも納得できる気が。^^

今までまったく興味がなかった、物理学の世界に触れることが出来、

貴重な学びと驚き、たくさんの希望が生まれました。(^^)/

そのきっかけとなったのが、9月9日、白山さんで見た? 不思議な光景でした。



社殿と自身の間を、飛び回っている“蝶”のような影 = 物質 or 非物質? は、一体なんでしょう?

ここからは自身の想像(創造)の世界です。^^

もしかしたら、M 理論における、11次元を象徴する何か? …なのかもしれません。

“11次元”というワードから、白山の本地仏である“十一面観音菩薩”が浮かんだのですが、

仏教における「空」の概念等、仏教と量子力学には多くの共通点があるとされます。

過去に、「白山は何故、十一面観音なのか?」という疑問から、“生命の樹”(カバラ)がイメージされ、

“天之御中主大神”へとつながりました。(菊理姫は天之御中主の後ろの正面?!ダートでは?とも^^)

『“白山”と“十一面観音”と“生命の樹”、神とは?』 <http://ascension-hokuriku.net/7-2023n-gwbh/2023.3.31.pdf>

私達の宇宙の創始と言われる、“天之御中主大神”は、12次元以上の新宇宙(NMC)に対する、

これまでの宇宙(旧宇宙)の“はじまりであり終わり” = “11次元”なのかもしれません?

日本神話には、宇宙の最初に現れた造化三神は、「皆独り神であり、そのまま身を隠した——。」とあり、

それはまさに超弦理論において、私達の3次元空間に畳み込まれている = 隠れている、

余剰次元(異次元)の事と言えないでしょうか? ^^

携帯電話に使用されている半導体は、量子学に基づいて作られたものとされ、その日その時、

人間の目では見る事が出来ない、量子の世界を覗いていたののかもしれません。^^

蝶？は、量子の世界(携帯カメラの中)では、実体が無く(はっきりとした形として写っていない)、
小さな粒の集まりのようにも見え、現われたり、消えたりしながら
空間を飛び回っている姿は、まるで異次元の世界を自由に動き回る、素粒子の群のようです。

トップショット機能によって撮影された写真は8枚あり、それぞれの中に、
更に何枚ものショット(写真)が入っている感じで、写真として取り出すことが出来たのが下記です。

粒の集合体の濃さ(濃度)？によって、
写る(物体として確認できる) or 写らない(確認出来ない)に、別れる感じです。^^



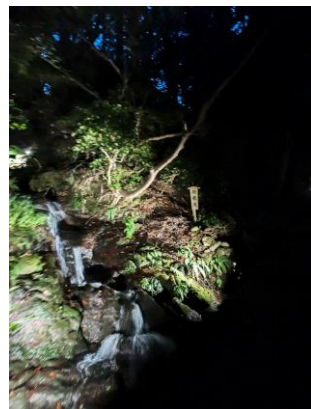
トップショット機能で撮影されていた
8枚の写真



8枚の写真の中から、粒の集合体？として、取り出すことが出来た何枚かです。

物質の元とされる“素粒子(ひも)”なるものが存在していて、
私達には認識できない、別の時空(余剰次元、異次元)の間を行き来している…
肉眼では見えないものが、確かにそこに写っていて、消えたり、移動したりしているので、
量子学が伝えている、“素粒子の不思議な振る舞い？”や、
M理論や超弦理論に出てくる異次元の世界が、実際に存在するのでは？と。^^
神道や仏教の教えは、科学の先を行くもの——、宇宙高次の科学であり叡知なのだと思います！

ちなみにこちらは、10月おついたちの白山さん表参道、琵琶滝付近で写した二枚です。



一枚の写真の中に動き(回転)を感じるので、その前後が気になったのですが、

残念ながらトップショット機能は働いていませんでした。(前回同様オートにしてありました)

(一枚の写真に動き？とは、まさに“波”と“粒”の二重性が、そこに映し出されているという事では？^^)

右側の写真は、もはやこの世のものと思えません…。どの次元の、何が写っているのでしょうか？

(なんだか、膜にへばり付くひも？！に見えてきました、笑)

“スピリチュアル”と“科学”は、コインの“裏”と“表”であり、切り離すことが出来ないもの——、

不思議？とされる出来事の裏には、必ず、科学で説明できる“カラクリ”がある？！

現代物理学では、どんな風に説明できるのか？楽しみです。^^

そう言えば自身にも、過去に不思議な体験があったことを思い出しました。

中学生のある日、まったく意味不明の古文を読んでいたのですが、その時何故か浮かんだのが

「読書百遍義自ずから通ず」という言葉でした。(魏の儒学者・政治家である董遇^{とうご}の言葉。)

そんなことはないだろう…。と思いながらも、試しにやってみることにしました。^^

三十数回目？の音読だったでしょうか、その時、ナント？！

その直前まで全くわからなかった意味が、一瞬で、全部理解出来てしまったのです？！

まるで、虎の巻(解説文)を覗いてしまったかのように…

今思うと、その一瞬の間に、どこか(異次元？)で、何か(アカシックレコード？)を見て来た?! のでは、と。

“アカシックレコード”とは、“宇宙のデータベース”とも呼ばれ、個人の人生やあらゆる知識が暗号化され、

記録されているとされ、私達の“意識”は、そこにアクセスする事が出来るのかもしれませんが。

またある日の事、友人から、

「今みんなで、“こつくりさん”してるんだけど、なんか聞きたい事ない？」との電話がかかってきました。

その当時流行っていて、興味はありましたが、自分でやってみようとは思いませんでした。

やり方は、五十音表の上に硬貨を置き、その硬貨の上に数人が人差し指をのせて、

「こつくりさん、こつくりさん、おいでください。」と言って、こつくりさん？なる存在を呼び出し、質問すると

文字の上をコインが動いていくので、それを答えとして読みとるというものでした。

せつかくなので、質問してみる事にしました。^^

身近に迫っていた校内マラソンでの順位や、期末試験の点数、〇〇さんの好きな人は誰？等、

たわいもない質問ばかりでしたが、不思議な事に、自身が心の中で描いていた答えが、

そのまま、ドンピシャ！で返ってくるのです？ えっ、どうして…？

なんだか怖くなって、答えを曖昧にしていると、返ってくる答えも、やっぱり曖昧です？！

「もういいからね！^^ありがとう。」と言って、電話を切ってしまいました。

もし友人が、ある程度自身の答えを予想できたとしても、そっくりそのまま、というのはあり得ません。

やっぱり、こっくりさんっているんだー、と思っていたのです。が、これも今考えると、おかしい。。。^^

こっくりさんがその時指し示していたのは、自己が心の中に描いていた答え、そのものです。

私達は皆、意識の深い所(集合無意識)ではつながっているとされ、

自己の意識が、その場に働きかけ、友人らの潜在意識=コインの上の指を、動かした?では?^^

こんな風に考えると、超能力と言われるような不思議な力も、人が持つ本来の能力であり、

これまでは、人類の霊性=内面の進化が伴っていなかった為封印されていましたが、

中今、開放される(科学で実証される)時となり、誰もが当たり前を使うようになるのではないのでしょうか?

“スピリチュアル”と“科学”が融合した、新しい地球と人類の姿が、だんだんリアルに見えてきました!^^

「物質の最小単位を“素粒子”と呼び、素粒子には“波”(エネルギー)と“粒”(物質)の二重性がある。

“観測”によって1つの固有状態に収縮する。」というのが、現代物理学における真実でした。

自分語(笑)に変換すると、全ての物質は素粒子からできていて、素粒子は「波」=エネルギーであり、

「粒」=物質でもある。その状態を決定するのが、「観測」=“意識”の力である。

となり、私達の意識には、次元の壁を超える∞の可能性があり、真に5次元の世界が見えて来た!

想像できる事は、すでに存在しているパラレルワールドを示すものでもあり、そこに意識を向け、明確に選択する

=行動(波動の一致)によって、それは現実となる!!ではないでしょうか!^^

その背後にあるのが、これまで秘められていた**“宇宙最大の力”=“愛”**であり、それは私達の中心=**“ハートと魂”**の中に生き続けていて、解放される時を待っていた!!

愛と光のワンダーランド“新地球”は、確かな現実です(^)v

嬉しい予感?!の数々は、3次元の奥に畳み込まれていた宇宙高次の計画なのかも!?

自身に今イメージされているのは、“**新生レムリア大陸**”の浮上です!^^ (↓地底からも、宇宙人さんが出て来てるわ?)

2022年のコンテンツ『宇宙はみんな愛と光の家族』

<http://ascension-hokuriku.net/6-2023nmc/2022.4.17.pdf>



“レムリア”は、最も古くて最も新しいマスター方=新**“GWBH”**の、地球におけるはじまりの座標であり、

水の底に沈んでしまった自身の、大切な故郷(レムール)でもあります!^^

根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN <http://ascension-hokuriku.net/7-2023n-gwbh/index.html>

地球外生命体とのオープンコンタクト?! 開星?! 等、スペシャルなイベントが目白押し!

ワクワク GOーー!!!

2024. 10. 10 根源の愛と光の新地球にて 流美 (*^^*)v